環境認知とイメージ

Environmental Cognition and Image

ひとはどのように環境を認識し記憶するか? How people recognize and memorize their environment?

- 1. 認知地図 Cognitive map (Image map): E. Tolman, 1948
- 2. 都市のイメージ The Image of the city 都市のパブリックイメージを構成する5つの要素(K.リンチ) Lynch's five elements of the "Public image" of the city

path 通路edge 境界線landmark 目印

· node 結節点

・district まとまった地域

アップルヤードの研究: どんな建物が覚えられやすいか? Appleyard's image study: Why buildings are known?

- ・ 独特な物理的形態
- 都市景観の中での見やすさ
- ・ 個人的な活動や利用、その他の行為に関係のあること
- ・ それが文化的に重要な意味を持っていること
- 3. 都市構成の文化差 Cultural difference in structuring the city
 - 一貫性のある構成(宇宙観) A city with a coherent image 地番のつけ方 How address is organized
- 4. 経路探索の方略 The strategy of way-finding イメージマップの構成法: 継起的・空間的

Methods of structuring mental map: Sequential / Spatial 認知距離・知覚距離 Cognitive/ perceptual distance 方向感覚 Sense of direction 広告の案内図の特徴

5.場所の記憶要因としての身体運動感覚

Kinesthetic memory as a factor of place identification

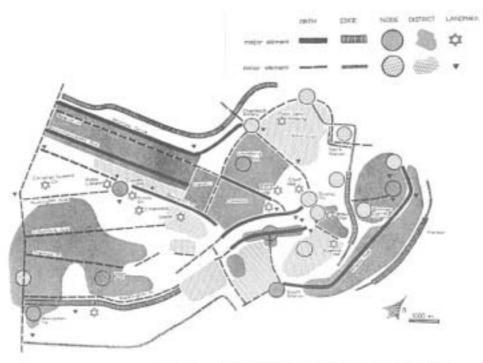


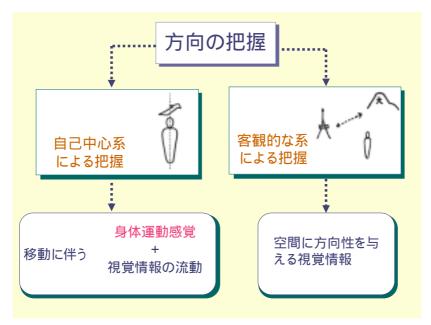
FIG. 3. The visual form of Boston as seen in the field

K. リンチの都市のイメージを構成する要素

研究対象 影響要因 著者	研究対象		影響要因被發音中心														til inh	
				要因		刺激中心要因群										被験者刺激 中心要因群		
	対象場所 移動スケール	移動手段	年齢	性別	所得差	歩行時間が短い	歩行速度が速い	坂・階段がある	がり	視覚情報が多い	曲折・交差点数が多い	分節数が多い	混雑している	道路や地形が複雑	目的地の視認性がある	目的地に親近感がある	目的地の知識がある	街の中心部に向かう
Sadalla (1979 ~ 1980)	室内:9~30m	歩行								+	+	+				-		
羽生 (2000)	廊下や階段:46m、30m	歩行				-		±							-			
柳瀬(1999)	廊下:50~144m	歩行							-	+								
Okabe (1986)	公園:98m	歩行	×					+			+							
Nasar (1985)	大学キャンパス:60~480m	歩行	×												-	-		
Lee (1970)	都市の街路: 260~1300m	歩行																-
Allen (1981, 1985)	都市の街路:1km	歩行										+						
Appleyard (1970)	都市全域:23km程度	車																
Briggs (1973)	都市の街路:15km程度	車									±							+
Canter (1975)	東京など7都市:16~42km	車/電車												+				+
Thorndyke (1981)	架空の21都市:150km程度	車/電車									+		+					
Dornic (1967)	東京など10都市:数千㎞	飛行機															-	

+ : 距離を過大評価 , - : 距離を過小評価 , ± : 過大および過小両方の評価がされる , :影響あり , x : 影響なし

主な既往研究と距離知覚に影響する要因



方向把握の2つの方略



砺波平野の耕地整理による変化